

ソヴェトにおける経済地域の理論と 農業地域区画について

駒 井 正 一

はじめに

社会主義においては、国民経済の計画化が実施される。現実には、それは、地域においてあらわれ、計画の進展、社会主義建設の発展にともない、地域も変化する。そして、経済的諸部門の数やその組みあわせは、地域の歴史的・経済的条件のちがいがから、多様化し、地域に応じたコムプレクスを生みだし、さまざまな地域的諸類型をつくりだしている。これらの諸地域は、ふつう“経済地域(区)”とよばれ、社会主義諸国では国民経済発展の基礎地域として重視されてきた。これらは、国民経済レベルのすぐ下にある第一級の経済地域から、ある種の完全性をもつ最小の経済地域まで、あるいはそれへの形成過程にあるものまで、いくつかの階層をもつヒエラルヒーを形成している。また、このクラスわけは、国々によりことなっている。

一方、コムプレクスたる経済地域を構成する一生産部門としての農業部門は、国民経済的要請とともに、専門化がめざされる。この専門化は、主要な農業部門を中心に、一つの農業地域のタイプを生みだしている。また、専門化とともに、総合的発展もめざされる。

これらの経済地域、あるいは農業地域の区画(劃)(あるいは区分)は、地域における経済的諸部門、農業部門の役割をはっきりさせる。そして、それは、地域における諸部門の現状確認にとどまらず、国民経済諸部門の具体的形成、将来の発展の方向を明らかにする。そのためには、地域に応じた発展の類型をとりあげ、区画のための指標を問題にしなければならない。

ソヴェトでは、社会主義建設の初期以来、ゴエルロ・プランを中心とした国内の“電化”をテコに、経済復興、経済的諸部門の計画化をすすめてきた。それにともない、経済地域の内容も変化してきた。そのため、経済的变化に応じた経済地域の概念も明らかにされねばならない。また、農業の集団化も進展してきたが、農業地域の区画については、その性格、地域における農業諸部門の組みあわせ、その指標、専門化と多部門化、土地の分類、自然的諸条件の反映としての自然区画との連関性、地方的差異などをとらえねばならない。

本稿では、以上のような性格をもつソヴェトにおける“経済地域”の概念と意義についてとりあげ、さらに農業地域の区画についての若干の問題について考察する。

1 社会主義的経済地域の意義

(イ) 初期ソヴェトにおける“経済地域”概念の創出

今日の社会主義における経済計画の地域的基礎たる“経済地域”の概念は、ソヴェトでは、まず、1920年代の初期に確立された。これは、旧社会の母斑の一つのあらわれである資本主義段階での地域的不均等発展の克服の実践的な単位とされてきた。Ленин は1922年、当時の経済の社会主義化を発展させるために、オブラストやライオンの経済会議の自治と活動を拡大、発展させる必要性をといいた⁽¹⁾。このとき、経済会議の活動の単位となったソヴェトの諸地域では、経済条件、気候条件、生活条件、燃料取得の条件、地方産業などの諸条件が考慮され、“科学的根拠”にもとづいて区画された。この諸条件の部門的結合は、地域においては、コムプレクスとなってあらわれたが、これが、区画の“科学的根拠”とともに、1920年代の経済地理学的関心の大きな部分をしめた。この経済地域の概念創出に一定の役割を果たしたのは、ゴエルロ・プランであり、ゴスプランなどの計画委員会であった。

第1表 分類単位名と、

	Саушкин	Алампиев	Помус	Коржов
“超”地域単位			地帯	
一般 地域区分	大経済地域	大経済地域	大経済または経済地理地域	大経済または経済地理地域
	経済地域 (サブ・リージョン)		特別サブ・リージョンまたは工業経済地域 (ソブナルホーズ地域)	
		経済—行政地域	州タイプ 経済地域 (中間地域)	経済—行政地域(1) (州タイプ)
細分した地域区分	低次地域 (工業結節)	州(オブラスト) 内地域	州内経済地理地域 (低レベル)	細分した (州内)地域
		低次地域	サブ・リージョン (ライオン)	ライオン
一般経済地域区分以外の地域			経済(的) 地方	経済小地域(2) (マイクロライオン)

注(1) 共和国, 自治共和国, クライ, オブラスト; あるいはそれらの小グループの中での

(2) 工—農関係をもとにしたライオン内の初級領域コムプレクス

И. И. Пархоменко, Детальное экономическое районирование в СССР, 1965.

В. В. Покшишевский, География Советского Союза—природа, население, хозяй-

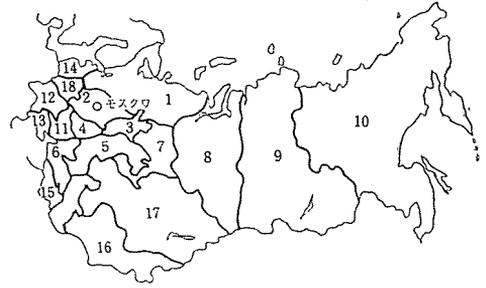
ゴエルロ・プランによって、大発電所を中心に、高圧電線、鉄道をめぐる電化網の完成をめざしたが、同時に、各地域に分散している資源の評価を行い、地域の特徴に応じた電化の形成がとられた。「国土電化の暫定計画」が実施され、「もっとも優秀な科学者と技術家200人が、この計画の作成にあたった」。(2)また、「科学技術活動計画の下がき」(3)で定められた“因地制宜”的地域開発の方向が具体化された。これは、低級の経済地域、地方の経済地域の形成に効果があった。レニングラード州のクラスナヤ・オクチャブリ発電所をはじめ、ゴーリキ州のニジノブゴロドなどの「これまで堪えられないような条件のもとで作業しなければならなかった結果利用できなかつた」が、「ありあまるほど、たくさん持っていた泥炭」(4)や石炭、石炭粉、油母頁岩などを利用した発電所を中心に、それと関連した工業や自然資源の配分が区画された。たとえば、地方集権的な発電所を中心に、ほぼ半径300~400

体系中の位置

Мытарев	Выков	Кибальчич	Лейзерович	Покшишевский
大経済地域	大経済地域	大経済地域	大経済地域	大経済地域
	ソブナルホーズ経済地域			
				州タイプ 経済地域 (大工業中心をもつ)
一州の 経済地域	州内地域	第2次経済地域または 第1次経済サブ・ リージョン	経済小地域	低次地域 (工業中心をもつ)
ライオン	低次地域		経済結節	
		第2次経済 サブ・リージョン (特別な目的をもつ 生産力のく みあわせ)		小地域 (細胞)



第1図 Александров によるゴスプラン設
定のころの経済地域区分 (1923)
Н. Н. Колосовский, Иван Гаврило-
вич Александров, Экономическая
география в СССР. 1965. стр. 437.
より作成

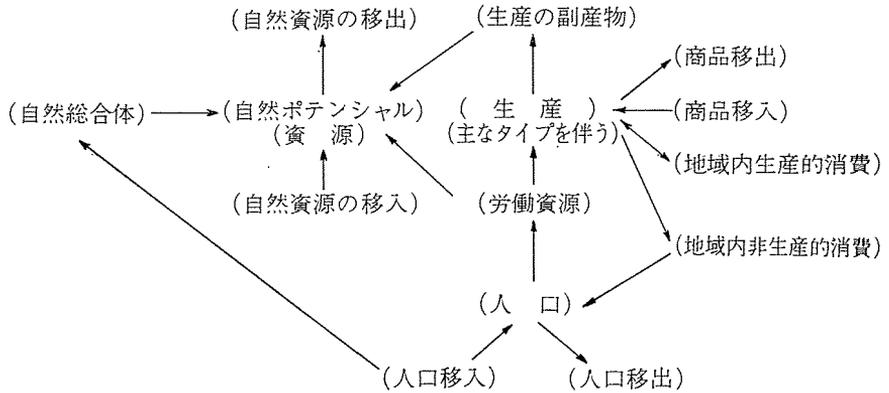


第2図 現在の経済地域区分 (Семевский に
よる)
Б.Н. Семевский, Введение в эконо-
мическую географию, 1972. стр.
332. より作成

km くらいの地域での安価な労働力資源を行使した建設であった。この建設，調査の過程で，各地域の経済地理学的研究がすすむ。

当時の経済地域の概念は，「国民経済の各種の部門を全国的規模での専門化と結合しつつ，高度の技術，つまり電化と自然資源や労働力を社会のために全面的に利用することにもとづき，計画的に発展し，客観的に存在する地域的生産的コンプレクス」⁽⁶⁾とされた。その結果，初期の経済区画では，第1図のように21リージョンが設定された。この経済地域は，各級さまざまなレベルにおいて，その意義，特徴をもち，その後の経済の発展によって，徐々にその具体的内容を変化⁽⁶⁾させていく（現在は第2図のごときである）。第1表にみるごとく，研究者によっても，そのレベルにおいても，経済地域の把握はことなっている。多くの場合，国民体系の中に，大経済地域から，低級ライオンまでのヒエラルヒーをもち，その間のお互いの連繫が考慮されている。また，行政区画との関係も存在する。これらの地域は，「自然特殊性と，過去の文化的蓄積と，生産的活動の能力をそなえた住民とに結合されていること

第2表 地域体系の内部関係



Б. Л. Гуревич, Математический метод в географии, 1966. より

により、国民経済の全般的連鎖の一環⁷⁾となっている。それは、社会主義建設を進めるために、国内を小さな地域に分割しつつも、完全に閉鎖的ではない経済的有機体 организм となっている。そして、地域を構成する要素は、それぞれの地域内においては、第2表のような連関性をもっている。

かくて、ゴエルロ・プランにもとづき、経済地域の一応の概念が提出されたのである。

(ロ) “経済地域” 概念の確立と意義

1922年につくられたゴスプラン⁸⁾は、また、経済地域に関して、6つの性格づけをおこなう⁹⁾ことに成功した。ゴスプラン自体は、経済地域の発展についての計画、および計画遂行のための検査などを行ったが、当初は、その活動は、十分ではなかった。また、その任務は社会主義への移行の過程で、国民経済の均衡性をもった発展と、社会主義的生産諸部門の計画的な生産配置をすすめることであった。こうして、経済の進展とともにゴスプランの体系化がすすむ。専門の計画機関として、中央の連邦ゴスプランをはじめ、共和国ゴスプラン、自治共和国ゴスプランが設けられ、その他、経済地域計画委員会、クライ(地方)・オブル(州)プラン、ライ(地区)・ゴル(都市)計画委員会、セリ(村)ソヴェト計画委員会の設立がすすめられた。ゴスプランのなかでは、工業部、地方工業部、農業部などの部門別部局のほか、地域計画および生産力配置部が、立案にあたり重要な位置をしめるようになった。そして、実践の過程で各地域のコムプレクスのあい異なるタイプわけの研究がすすんだのである。

ソヴェトの地域生産コムプレクスとしての経済地域は、ゴスプランなどの区画の結果として生みだされたが、1930年代の初期、第1次5カ年計画の段階では、ほぼ、その概念を確立させたといえる。この時期には、生産の配置と経済地域の区分が、前面におしだされるが、それは、中央統計局とゴスプランの合併による計画機関の改組などの影響による。そこでは、地方再建部を中心として、経済地域の区画、経済地域の再建、経済地域相互の連関性の問題をはじめ、地域別の長期的展望・年度計画が作成された。これらの仕事により、地域生産コムプレクスは、各部門構造のくみあわせを地域構造とに統一させることにより、経済地域の実体として、その姿を明らかにした。のちに、Колосовский¹⁰⁾、Никольский などにより、地域生産コムプレクスの詳細が検討される。そこでは、第3表のように、地域生産コムプレクスを、① ピオネール(パイオニア)、② 結節形成、③ цикл(サイクル)形成、④ 再建、⑤ コムプレクス構造(多数の諸部門結合よりなり、それが、地域生産コムプレクスの特徴であるという意味)などの分類がなされ、経済地域の実体の性格づけがおこなわれている。

この経済地域の概念の確立には、いかなる意義があるか。それは、社会主義社会をつらぬく経済的法則、国民経済の均衡性のなかで、地方の相対的な役割が明確になること、また、これらの地域の総合的発展がいかにすすめられるかということを分析し、そのための方法を提起すること、地域内において、その自給性を高めることなどにみいだされる。ゴエルロ・プランの実施やゴスプラン以外の研究機関での活動や、多くの研究者の研究により、これらの意義は、実践とともに多様化され、新たなものをつけくわえている。ゴエルロ・プランなどと同時代の研究者 Александров は、1923年、第1図のごとき経済区画を示した¹¹⁾が、そこでの区画の指標には、① エネルギーの種類による方法 ② 国家計画にいかにかそっているかという状態 ③ ライオンの形成の歴史的特徴 ④ 経済コムプレクス化の程度 ⑤ 国家計画の区分の相互連関性を用いた。ここにおいて、その指標に歴史的考察を加えたことは注

第3表 地域生産コムプレクスのタイプわけ

タイプおよび サブ・タイプ	グループ				コムプレクス 構造
	ピオネール (パイオニア)	結節形成	サイクル形成	再 建	
コークスをもとにした冶金業 鋳 業 石炭—冶金業 鋳業—冶金業 非鉄金属	北 東		クズネットワーク アルタイ 中央カザフ 東カザフ		ドネツ—ドニ エプル ウラル
エネルギー集約 エネルギー集約的非鉄金属			東シベリア		
石油—天然ガス化学工業 石油—天然ガス採取 石油—天然ガス化学工業		西カザフ	オビーイルト ウイジ 北カフカス		ボルガ
機 械 機械、繊維化学 機械、木材				ベロルシヤ ボルガー—ビヤ ツカ	中央ロシヤ バルト沿岸 北西
工業—農業 農業が主 工業が主			北カザフ 南カザフ	モルダヴィ ヤ 中央黒土	南 南西
木材、水導入工業—農業			中央アジア		
漁 業			極東		

И. В. Никольский, Типология районных производственных комплексов, 1972. стр. 70. より
作成

目されてよい。また、Ведищев は、経済活動の可能なかぎり諸部門の結合をはかり、専門化も行うこと、電化の一般的利用、重化学工業の発達、建設・軽工業への生産力の適用、食糧の需要にたいする自給度をとりあげた²⁴。科学アカデミーの生産力研究委員会（СОПС）は、第1次世界大戦時の自然生産力研究委員会（КЕПС）をうけつたものであるが、「科学技術活動計画のながき」以来、その任務を、① 総合考察、② 生産力発展の区域間における協力を、問題のある地域で行うこと、③ 専門委員会（重大な問題に関する）の設置・活動におき、空白地域、未開発地域での調査、技術・経済の報告、学際的協力、国民経済発展の計画の原則などを解明²⁵する仕事を行ってきた。また、СОПС の内部組織は、学問の性格にあわせてつくられ、① 鋳産資源、② 冶金工業の新基地、③ 水資源、④ 農業資源および区画、⑤ 自然資源および北極の各班にわけた。この間、科学アカデミー地理研究所経済

地理グループは、区域経済地理学の方法を用いて、各地域の調査をおこなってきた。これらの研究はすべて、基本的な経済地域にそくした考察を行い、各地域の発展を明らかにすることにより経済地域およびその区画の意義を見いだしているのである。

2 農業地域の計画化をめぐる一“経済地域”概念の確立期における農業

初期ソヴェトにおける“経済地域”およびその概念の確立にあたっては、かくて、ゴエルロ・プランや、ゴスプランその他の活動が大きな役割をはたした。これらの活動は、また、農業部門における社会主義的農業地域の創出や区画の概念、理論化、方法の確立にも一定の方向づけ⁴⁴⁾を示した。

ゴエルロ・プランによる国土の電化と農業との連関についていえば、地元の原料を利用した拠点開発的電力が「水力と風力発動機一般、農業への充用」⁴⁵⁾にまでおよんでいるという点である。ゴエルロ・プランには、国民経済全体にわたる計画の実施のほか、それぞれの部門にわたる計画が示されていた。それは「(a) 燃料供給(所要労働者数の計算もふくめて、こんご10年間のロンヤ社会主義連邦ソヴェト共和国の詳しい『燃料予算表』がつけてある。)、(b) 水力、(c) 農業(ゴチック、筆者)、(d) 運輸、(e) 工業からなっている⁴⁶⁾」。しかし、ゴエルロ・プラン作成の過程においては、農業をその計画にもりこむ意義は重要視されていなかった。しかし、1920年に飢饉がおこり、発電用原料を地元の泥炭などに求めた本来的な“因地制宜、地域の発展”の意義に、この克服の任務がつけくわったのである。すなわち、飢饉克服のためにも、下級地域における電化をもとにした、農業技術向上、食糧増産の仕事が生じたのである。「農業を機械化せん事は、食糧増収問題たるのみならず、幾千万の農民の救済問題を成すものである。(吾人は)露国電化委の仕事について、本問題を解決せねばなら」⁴⁷⁾なかった。各地で建設された発電所では、肥料問題を解決するため発電による人工肥料の生産がすすめられ、農業の化学化のためにもその役割が示された。農業の機械化によつて、農業生産力が高まり、エネルギーの使用に大きな節約をもたらした。

ゴスプランは、後に、「家父長的遺制やオブローモフ的生活やなかば野蛮な状態が残存」⁴⁸⁾しているソヴェトの初期の農村の改革にもその役割をはたした。当時、発電所からの電力供給が、各農村に送られるならば、「もし、電動機、その他の機械を十分手に入れるならば、そのときにはもう、実父長制から、社会主義への過程段階、媒介環は必要とされない」⁴⁹⁾と考えられた。電化をもとにしたゴエルロ・プランはすでに実施されたが、社会主義建設の初期の段階での、単一の国民経済的計画としては不十分であり、新たにその作成の重要性がしばしば訴えられた。そのため、1921年の秋の収穫期までに、短期間の全国国民経済計画の原則の確立が要求された。そして、食糧の問題がその出発点でとりあげられたのである。Ленинは「おびただしい困難全体の根元は、まさにここにあるからである。……余剰分は不時の予備とみなし、穀物が完全に不足する場合については、ただ大体の案をたてることにとどめる……というようにするのが、より合理的であろう」⁵⁰⁾とした。かくて、初期の計画化の過程では、とりわけ食糧の確保をめざすなかで、工業発展をうながそうとした。また、これは、農民の生活の向上、経済建設での重要な問題であった。しかし、農業の基礎は、農産物の市場における確立・信用の面での確立がおくれているため、第1次5カ年計画でのコルホーズにおけ

第4表 Кондратьев の農業5カ年計画

	5カ年計画最終年度の計画		実 績	
	絶 対 数	5カ年間の増 大率 (%)	絶 対 数	5カ年間の増 大率 (%)
作付面積 (100万ha)	106	136	109.6	140
家畜 (大有角家畜換算, 100万頭)	74.1	129	79.1	138
5年間の投資額 (100万チェルボネツルーブル)	450	—	1,170	—

Г. М. Сорокин, Планирование народного хозяйства СССР, 1961. стр. 171., 平館利雄: ソ
ヴェト計画経済の展開, 1968. p. 159. より作成

る農産物の予約貸付制度などが実施されるまではその計画化は不十分であった。ゴスプランによる計画の展開も当初はにぶかった。

1924年には Кондратьев によって、ゴスプランの農業部にたいして、農業5カ年計画が提起²⁴⁾された。それは、1924年から1928年にいたるものであり、彼独特の発生論 генетика (農作物の自然成長をまっ客観的方法) にもとづき、作付面積の増大、家畜の飼育増加をねらったものであった。第4表にみるような一連の成果が示されている。ただ、彼の場合、農業政策によるもの (計画のプログラム) を目的論 телеология として排除したという点で問題があった。

一方、郷および村ソヴェトが、レーニンの提案にもとづいて組織された全国貧農委員会を合併²⁵⁾して、その権力をうちたて、地方における拠点としての意義をたかめた。社会主義的政権誕生以来の、いわば自然発生的な集団化のテンポは、この地方権力の確立とともにその速度をはやめたが、農業における「社会主義革命の嵐のような過程」²⁶⁾は、先の予約貸付制度の実施の時期、すなわち、第1次5カ年計画による工業を主導とする社会主義経済の物的基礎の創出によらねばならなかった。Кондратьев の計画化などはいわば、そのための基礎をきずいたものといえる。

第1次5カ年計画によれば、農業の部面では、レーニンの協同組合の実現が農業のたちおくれをなくす唯一の道であること、農業協同組合は、社会主義的工業が農村をひきいていくのをたすけること、近い時期にすべての貧農と大多数の中農を協同組合化にひきいれること、さらに、農具貸付所の広範な網の目を通じ、力の弱い経営への作業供与をおこない、共同耕作のために有利な条件でそれらの経営に機械を供与すること、また、農業の地域的、部門的結合をはかることなどの重要性が示された。この農業の地域的結合の問題が、農業地域の区画の実際的、理論的要求を提起したのである。

その後、ゴスプランは、数次の5カ年計画、7カ年計画の実行に重要な役割を演じるが、それにともない、機構の改革がすすめられる。農業に関連したその任務についていえば、ゴスプランの規定の第4条²⁷⁾が注目される。すなわち、

「ゴスプランの主要任務は、ソ連邦国民経済の内部において、諸経済部門の発展における正しい均衡の維持を保障し、かつ不均衡の発生を阻止するために必要な諸対策を講じることである。ゴスプランは、ソ連邦国民経済計画における社会主義計画における社会主義的生産の関連部門、すなわち、採取工業と加工工業、農業と工業諸部門、運輸と国民経済の

活動を調整し、生産の増加と消費の増加を調整し、生産のために融資し、かつ生産原料を獲得し、経済的に不必要な遠距離輸送、対抗輸送を解消する必要性にもとづいて、諸企業の好適な地域的配置を実現し、原料諸資源地とその生産物の消費地方へ新設企業を接近せしめることを、その任務とする（ゴチック、筆者）。

ここでは、農業と工業との結合、農業の原料としての意義、農業地域の充実が意図されている。さらに、ゴスプランの総合計画局においては、企業配置・地方計画部が設けられ、地方間連絡班、北、北東、中央、ヴォルガ、南、ウラル・西部シベリヤ、東・極東各地方班が設けられ、産業別計画部局の農業部では、国営農業課、農業班、畜産班、工業用農産物班、灌漑・土地改良班、およびMTC班が設けられ、地域における活動を行った。また、ゴスプランには、1であげたようなヒエラルヒーがあったが、とくに最下級のセリ（村）プランは、農業の区画の実現と深いかわりあいをもった。地方のさまざまな諸要素の把握の進展にともない、農業区画の客観性がこうして高められてきたのである。

3 農業地域区画の方法について

（イ）農業地域区画の意義と指標

各経済地域は、それぞれの生産部門を反映した専門地域をもつが、農業についていえば農業地域があり、経済地域の構成部分となっている。経済計画の場面での農業部門における発展については、数多くの提起がなされているが⁹⁾、具体的には農業の地域的发展と結合しなければならない。自然・労働資源を農業の発展のために利用するには、地域の農業生産の効果的な組織化についての方向づけをする必要がある。

その一つの方法がいわば、農業地域区画であるが、すでに農業の資本主義的段階において、Ленин のすぐれた分析方法が示されている。Ленин は、従来の経済学者たちが、ロシアの地においてとっていた経営方式 система хозяйства の相異による区画の方法ではなく、農耕経営方式 система хозяйства земледелия の方法¹⁰⁾をとった。それは、資本主義的農業地域には次のような特徴があり、それを区画の基本的環¹¹⁾ звено としたからである。① 農業での種々の社会的生産様式についてでなく、資本主義的様式の具体的現われの様々の形態、圃場作に基礎をおく資本家的農業経営の方式にあること、② 資本家的農業経営方式の多様性には、国の各種の自然的経済的地帯別の農業生産の専門化と配置が条件になっていることからであった。そして、農耕経営方式として、第1に、生産関係の型とそれに固有な労働力の質的水準、第2に、その地方の経済的および土壌、気候的条件に照応する経営の生産的方向と農耕方式ならびに経営の方向に即応し、しかも農耕方式にふさわしい農機具を問題にした¹²⁾のである。

また、この区画は、社会主義的生産関係の発展段階では、地方民主主義の確保とともに若干変化をみせる。すなわち、地域間の差異に注目し、そのためには、経済会議が、地方官庁問の不調な機能をとりのぞき、地方諸機関の自主性をのばすことであった。「真に民主主義的な意味に理解された中央集権制は、地方的特性を発揮させるだけでなく、地方的発意、地方的創意、共通の目標をめざす運動の多種多様な方途、方法、手段をも完全に、支障なく発揮させるといふ、歴史によってはじめて作りだされた可能性を前提とする」¹³⁾、そして、

農村における社会主義建設の基礎行政単位としてライオンが、また、計画機関としてのセリプランが強化された。

第1次5カ年計画下では、農業集団化の質的發展にともない、穀物生産、牧畜などの農業の部門生産における全国的規模での地域の特徴の分析が必要となったために、1930年ごろから⁸⁹、農業地域の区画についての研究が進展する。1950年の後半には、経済区画の理論の一定の確立を背景に、農業地域の40余にわたる区画が設定された。そこでは、食糧生産原料の生産をうまく行うことに重点をおいた。区画の単位は、まず、行政地域とし、全ソ連180の行政地域（オブラスト）での農業地域を設定した。しかし、この研究は、当初、Кондратьевの方法のように、多くは発生論にもとづき、農学者や植物学者たちによる、各農場の把握、特化現象、所与の穀物栽培の体系、ひいては、地域の不均等発展の現状を確認するにとどまっていた。すなわち、区画には、将来の展望の意図がもりこまれていず、（農業）経済地理学的研究が弱かった。そのため、モスクワやレニングラードなどの大学間の協力、学際的協力、地理学的研究がすすみ⁹⁰、科学アカデミーの参加もえて、プロジェクト・チームがくまれ、農業の地域区画が進展した。そこでは、オブラストやライオンの単位ごとの地域的諸条件、統計的データの集積もおこなわれた。さらに、コルホーズやソフホーズなど各農場ごとのデータを加え、各地域における農業の特徴が把握された。まず、① 生産の諸条件・諸要素のくみあわせをもとに、地域的な農業の生産タイプを確認し、② その結合のくみあわせ、レベルなどの材料の研究を行い、農業の生産配置・土地利用の合理的な生成をはかり、③ 地域の相違性と、のぞましい変化の評価などを基礎材料⁹¹にした。この際、それぞれの地域タイプは、ほぼ同質の自然、経済的条件のもとに生みだされている。その条件とは、気候、地形、植生などのほか、収入、集約度のレベル、大きさ、生産の様式などであり、それらも、同じレベルにあることであった。

ふつう、農業地域区画は、研究者の意図する内容により、そのあらわれ方はちがうが、スケールのちがいが、地理学上の諸規定によっても異なる。たとえば、Шоцкийによれば⁹²、次のような視点が提示されている。

1. 重要なまた集約な土地改良の研究をともなう、現在あるいは将来のいろいろな土地フォンドの地域的表現
2. 集約的な農業生産の地域的研究
3. エネルギー資源と農業生産技術の特殊的利用の地域的研究
4. 地域の自然資源の利用程度、経営条件の重要な決定をともなった農業諸部門の研究
5. 農業計画のタイプそのひろがりおよび農業の地域的あらわれの地理学的研究

また、Челинцев⁹³によれば、穀物生産地域と非生産地域をわけるとを主な視点としている。

Перцик⁹⁴は、農業が、ある地域においては、地域生産コムプレクスの構造のなかで、主導的位置をしめることに注意しつつ、次の5つによってこの分類を行っている。① 地域の特化、② 主導農業生産部門の生産量、③ 重要な生産手段の必要性、④ 農業生産の労働力とノルマの進歩と分化の計画との結合の重要性、⑤ 農業生産の最適の地域的組織化である。

さらに、一部では、ソヴェト・ヨーロッパでは、農業が専門化されているため、その形式が地域の農業生産の中心であるところでは、専門化部門生産物による地域の分類も一般的で

ある。その具体的例としては、地域のスケールの問題とも関係しているが、穀物の種類・家畜の種類を指標にとる⁸⁸場合である。

ところで、実際に農業地域区画が設定されるには、まず、農業資源と農業の現状とを連関させるために現実の地域の調査分析からはじめられる。その際、自然的特性を把握し、総合自然区の設定が行われる。ソヴェトでは各機関、大学などによって行われ、その結果は、地図化される。そして、農場の生産構造、人口などの経済的条件が調査される。次に、農業の地域的相異の修正、変更と発達の予報⁸⁹すなわち、長期的計画と科学的予見がはかられる。したがって、農業地域は、農業にとって重要な自然条件を基礎にした自然領域的なものとなる種の共通性を持ち、農場の専門化、耕作システムは、均一性をもつ領域を形成していく。

(ロ) 農業の地域的専門化と多部門化

農業地域区画にとって、いま一つ重要な意義を有するのは、ふつう専門化の形をとる商品化部門としての農業を、いかに確立させるかということである。また、農業における多面的な要求を満たすために、多部門の生産を示すことである。

まず、専門化についていえば、Ленинによれば、農業が商品化部門＝商業部門として、突然に、形成されるものではなく、また、地域によっても均質的でなく、その形態、経営の内容も異なるものである。農業のこの変化の過程は、農業が工業とちがいで、農業個々の技術的特性からくるものとした。すなわち、「工業とちがいで、農業は個々の部門に完全に分裂するのではなく、ただ、ある場合にはある市場向け生産物の生産に専門化されるにすぎない。そのさい、農業のその他の側面は、この主要な生産物に適応させられる」⁹⁰としたのである。

さらに、このとき、農業は、個々別々の部門に分裂せず、ある市場向けにつくられる。また、同地域に工業がある場合、農業自身が交換のための生産に特化し、地域的にも特化がすすむ。そして、「生産物加工のいろいろの種類をたがいに分離して産業部門の数をますますつくりだしていく専門過程は、農業にも現われ、それぞれの農業地帯(および農業経営方式)を専門化していき、こうして、農業生産物とのあいだばかりでなく、農業の種々の生産物のあいだにも、交換をよびおこす⁹¹」。

この専門化の過程は、農業の社会主義建設の初期の過程においては、コルホーズレベルにおいてもその専門化とデパートメント化についての論争をよんだ。その際、アメリカの例をならい専門化がとられた⁹²。これは、コルホーズの機械化、技術の装備を容易にし、すなわち、農業においても、社会的労働の節約の原則をつらぬき、農業における社会主義的ウクライドが貫徹されているソフホーズを、農民にとって農業の集団化の一つの模範⁹³として考慮するネライもあった。ソフホーズにおいては、農業機械、高度な技術をもった労働者などがおり、小規模農法における農民のエネルギーの浪費をふせぎ、大規模耕作を組織し、いわゆる große Industrie の優位性を展開した。

また、この専門化は、地域においては、どのように展開するか。これは、農業地域区画においては、主要生産物の決定でもあるが、後にみるセミパラチンスクの例のように、自然的、技術的、歴史的な地方の特殊性と関係しており、とりわけ、農耕と畜産を、また穀物や工業用作物や飼料や野菜の生産をただしく結合することを前提としている。Баранскийによれば⁹⁴、専門化による利益は、① 地域の自然的特性を十分に利用し、② 機械技術を十分に適用しうること、③ 労働を一層専門的にする、④ 播種地を充実させることにより、農業

原料を耕作地点に運ぶ労力を節約できる点があげられている。専門化の有利な条件は、直接的生産物の生産地から需要地に対する輸送の点で、経費が節約されるというわけである。また、これらは、人口の増加とも関係しており、急速に人口が増加する都市周辺においては、穀物の内部的要求にその生産がこたえきれず、主要生産地においてすら、穀物の流入を必要とする「倒流現象」⁴⁴ もおこりうる。

そのため、農業の専門化は、先の Ленин の指摘のごとく、唯一の生産物における専門化を意味せず、そのくみあわせが問題とされる。また、専門化部門の不均等的発展におちいらないように、地域および農業地域における総合的発展、各生産部門における均衡性 пропорциональность の保持が必要となる。農業生産そのものが、労働の直接的な働きのもとで進められる作業期間と、自然的な過程の作用のもとで進められる期間⁴⁵ の二つに分けられるため、利用における生産手段と労働力の均等性 равномерность が示される。この均等性は、農業における副産物の利用、土地の利用のために必要であり、いわゆる農業における長期にわたる「閉鎖系」あるいはサイクル цикл の形成である。この農耕方式の例としては、輪作があげられる。

輪作は、土地、機械などの利用を決定し、機械の形態にもよるが、圃場の形態をも決定する。一般に「圃場の形態は、トラクターと複雑な農用機械をよりよく利用できるよう、一辺が、1.5～2 kmの正方形に近い長方形がもっともよい」⁴⁶ とされる。こうした輪作の形式は周知の自然改造の過程でもとり入れられている。

たとえば、農業地域区画は、大ロシア平原の地においても、主要な穀物地域の発展をうながした⁴⁷ が、この平原の北部は、世界の「お天気工場」とよばれており、ロシア平原にブラヌ буран という大吹雪をもたらし、また、黒土地帯には、スホーベイ суховой という乾燥風をふかせ、農業生産にとって一定の困難さをもたらす。このため、克服の展望がだされたのが自然改造計画であり、輪作の導入であった。すなわち、いわゆる「自然の改造のための大計画」たる「ソ連ヨーロッパ部および森林ステップ地帯において、安定した高い収穫を確保するための農地保護林の植えつけ牧草循環播種の導入、貯水池の建設について」の計画がたてられ、植林をはじめ、輪作形態を積極的に導入し、農耕経営方式のみならず、地域の性格、生産配置に変化をもたらした。

(ハ) 農業地域区画と地域

農業地域を区画する場合、その最小単位としては、個々の農場の単位がその分析の指標となるが、これはいわゆるマイクロライオン＝小地域（マイクロリジョン）микрорайон の問題と密接な関係がある。第5表におけるマイクロライオンのタイプは、資源利用にもとづくいくつかの経済発展の型をしめしているが、各マイクロライオンも、いくつかの階層をもつヒエラルヒーを形成しつつ、オブラストやライオンなどのマクロな地域とことなる性格をもっている。この地域は、地域生産コムプレクスを形成する上でのいわゆる「細胞」клетка⁴⁸ の役割をはたしており、とりわけその性質が地域における性質を決定する上で重要である。たとえば、オブラストやライオンの農業地域区画をおこなう際、その区画の基礎的単位を個々の農場の単位にとりつつも、いわゆるマイクロライオンとしての細胞を中心におく区画の方法である。この細胞は、第5表のごとく、それ自体、ふつう4つほどの級に分けられる⁴⁹ が、さまざまな機能、結節の特徴を有し、それらの内的連関のほか、それぞれの地域より上のグラス

第5表 ソヴェトの経済小地域のタイプ

	小地域のタイプ	機能の特徴	結節の特徴
I	資源利用にもとづく 選択的経済発展および 低人口密度、あるいは 点在集落パターン	1. 粗放的農業 2. 農場をもった林業 3. 農場をもった鉱業	“都市網”は、まばらな集落 ときには2, 3の小さな町からなる ライオンは別のライオンとはつな がらない傾向にある
II	同質的経済発展および 集落（ふつう農業）	農業—工業地域 農業はおおむね集約的 工業地点、小結節点は、一般に、 農業生産過程において特化して いる	町と都市タイプの集落のネットワ ーク。ライオン間にはわずかなむ すびつきがある。しかし、1ない し数個の町は、小地域内で有力な 地位をもつようである
III	集約的経済発展および 核のある集落	工業—農業地域 地方的鉱業、農業生産に加えて、 地方の自然的基礎とは関係がな いたくさんの製造業がある 農業は部分的には、地方の都市 住民に指向している	近接するライオンに影響を与える 大・中規模の都市が中心をしめる 若干の場合、中心都市の機能は、 複数の場所に分配される
IV	集約的経済発展および 集積した集落	1. 大製造業地域 ある場合には、採取工業を もともなう 2. 大燃料採取工業あるいは石 炭・鉄鉱業 3. 大保養地域 農業はすべての場合郊外の 蔬菜生産タイプに指向して いる	都市の集積あるいは集積の過程に ある大きな都市 この集積は、近接するライオンを 支配する 全小地域で交流がおこなわれる

E. E. Лейзерович, Разрешение проблем экономического микрорайонирования, 1972. стр 88. より作成

の地域との密接な連関性をもっている。そして、その連関性のキズナとして、運輸網や、情報網があげられるのである。

マイクロライオンには、具体的には各農場のほか、これがいくつか連合した旧MTCゾーンなどがその構成単位として使われる。そして、これらの地域は、いくつかの指標において、ほぼ、同質的なものをもつわけである。その指標には、先の区画における指標と同様のものが使用されるが、生産手段、労働力の相違など経済的条件のほか、自然的条件の位置も、深く考慮されている。この場合、多くの農業地域区画の方法がそうであったように、地域における現状の生産の相違の確認のほか、長期的な展望を提起するように工夫されるのである。また、このマイクロライオンは、第5表の小地域（＝マイクロライオン）のタイプをみればわかるように、集落のパタン、質的情況との連関性をもち、直接に地域住民とつながっている点で、きわめて重要なものとなっている。

ところで、農業地域区画における自然的条件の意味は大きいが、地形、地下水の構成、土

壤成分、農業気候などの自然的要素は、マイクロライオンなど、下級のレベルの地域にいくほど重要性をます。とりわけこれは、農場レベルでの生産と地域のクラスわけにとって、意味のある指標となる。それは自然区画の基礎として農業気候区、土地資源利用の区画⁶⁴、農業生産のための専門化地域の区画などにもしばしば利用される。本来の自然区画と農業地域区画とは、お互い異なるものであるが、マイクロな分野においては、自然—経済地域として統一されるわけである。したがって、これは、先の経済地域の、地域生産コムプレクスとしての概念にはあてはまらず、第1表において、Помус や Коржов, Кибальчич そして Покшишевский らも主張するように一般経済地域以外の地域として分けられるべきである。

ソヴェトでは、全国30余の農業地域が、自然—経済地域と一致し、各農業地域では、自然条件に経済条件とが同一体として理解された⁶⁵ ことがあり、また、図化もされている。農業のための自然区画は、植生をきめ、自然地域と農業地域とを一致させる場合があるわけである。これらの成果は、将来発展する農業地域の区画の自然的経済的条件を示す場合は、単なる自然的条件をの諸要素のくみあわせをしめす地図にとどまらず、住民、農場の雇用状態、居民点の生産タイプなどの市場のひろがり、農場のセクターのひろがり、地域生産の構造、地域の特化をしるす。この際、先のオブラストやライオンの単位の集積データを利用し、小縮尺の地図などに作りあげる。最近では、7カ年計画の間に、40余の加盟共和国における自治州の地図集の作成されたことなどに、その成果があらわれている⁶⁶。そして、具体的には、

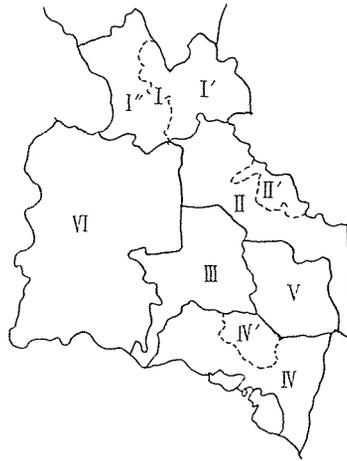
1. 農業の自然資源の地図化、長期的な展望の地図化
2. 人口資源の長期的配分の地図化
3. 農業の工業化をもふくむ工業の部門部門のセクターにおける長期的発展の展望の地図化
4. 将来の農業地域のモデルの地図化などが示される。

たとえば、第3図のごとく、セミパラチンスク・オブラスト⁶⁷では、4つの自然—経済ゾーンにまず分けられる。① ステップ、② 半砂漠、③ 山まじりの地域、④ 砂漠地帯。これをもとにして、農業地域区画としては、第4図のごとく、I 混合牧畜をともなう、穀物および油料作物(ナタネなど)の地域、I' 穀物および油料作物、肉牛および乳牛、豚、羊のサブ・リージョン、I'' 穀物、羊毛および肉用羊、肉牛および乳牛・豚のサブ・リージョン II 穀物、肉牛・羊の地域、II' 穀物および油料作物、肉牛および乳牛、羊のサブ・リージョン、III 肉および羊毛用羊、肉牛および穀物地域、IV 羊毛および羊毛—肉用羊、肉—乳用牛、穀物、地域、IV' 羊毛用羊、肉—乳用牛、豚、穀物および油料作物のサブ・リージョン、V 肉—羊毛用羊、肉牛、副次的には穀物栽培の地域、VI 肉および肉—羊毛用羊、副次的には飼料作物栽培をともなった肉牛の地域に区分されている。

セミパラチンスク・オブラストの地域では、非黒土地帯⁶⁸における栽培の中心としてのジャガイモ、野菜栽培、亜麻栽培などの栽培より、むしろ、スケールは異なるが、第3表で示したような、中央アジアにおけるごとき灌漑を主導とした農業、すなわち水力と灌漑のサイクル цикл が穀物生産に特徴を与えている。つまり、農法の改善による増産 культура земледелия、穀草交替的農耕方式⁶⁹ травопольная система земледелия が問題とされる。Ленин は、「農業においては、一つの生産機構のうちにむすびあわされた『機械の体系』はまだ存在しない」一方、「絶対に除去できない農業の特殊性がある (……)。ぞういう特



第3図 セミパラチンスク・オブラストの
自然—経済地域
А. Н. Раки́тников, В. Г. Грюч-
ков, Аграрное районирование,
стр. 38. より作成



第4図 セミパラチンスク・オブラストの
農業区画
同左より作成

殊性のために、機械制大工業は、それが工業でもっているすべての特徴を農業においてもつことは、けっしてない⁵⁵⁾と指摘した。ここでは、機械の体系の問題は、いうならば、先にあげた閉鎖系の問題であり、農業における **サイクル** の問題として理解されるのである。これは、地域生産複合の生産とともに、農業自体の内部に「閉じこもっている」⁵⁶⁾部門結合の形をとるものであり、全農業<サイクル>と工業の相互連関が認められる。Коросовскийによれば、**サイクル**とは、「当該種目の原料およびエネルギーにとっての基本的過程の周囲に、相互制約的（相互依存的）に発生する、典型的な、強固に存在する生産過程の総体」⁵⁷⁾である。セミパラチンスク・オブラストでは、非鉄金属を主導生産部門とする大経済地域における地域生産複合の **サイクル** のなかで、その農業地域生産の役割をはたしながら、農業の体系のなかでは、先のような独自の **サイクル** を形成しているわけである。

また、農業における基本的フォンドについては、区画の指標として、その分類が大きな意義をもつが、農業の多様化から、フォンドの分類も多様化⁵⁸⁾している。それは、所有形態により、① 全人民的所有にもとづくフォンド（ソフホーズ、副業、国营企業ならびに企業フォンド）、② コルホーズのフォンド（コルホーズおよび付属の農業企業フォンド）、③ コルホーズ員の個人的所有フォンド、④ 労働者・勤務員の個人的所有フォンド、⑤ 家内工業内に属するフォンドにわけられる。また、フォンドの種類別により、① 生産的基本フォンド、② 非生産的基本フォンド（住宅、クラブ、学校など）にわけられる。これらは全国的な一般的指標として、理解されてきた。重要な生産手段である土地は、農業用地として使用される場合、一定の生産的使命をもつ土地として扱われるが、その利用の特徴は、その自然的・歴史的特殊性により決定される。そして、利用の種類としての土地の区分は、一般に、

次のようにおこなわれている。

1. 耕地（播種＋休耕），野菜畑をふくめる
 - a. 農業技術の土地改良の個々の方法への適用
 - b. 機械，運輸手段の適用
 - c. 実際の栽培植物の材料
2. 土地に覆いをした栽培方法（温室など）
3. 休閑地
4. 天然または改良飼料地
 - a. 改良の個々の方法の適用
 - b. 機械，運輸手段の適用
 - c. 「利用」状態による方法（草刈り場など）
5. （植樹）栽培（茶など）
 - a. 農業技術，土地改良の方法
 - b. 機械，運輸手段の応用
 - c. 利用（状態）による方法
6. 森林
 - a. 森林
 - b. 運搬の便利さによるもの
 - c. 利用（状態）による方法
7. 灌木林
8. 沼沢（泥炭など）
9. 貯水池（水面）
 - a. 貯水池
 - b. 利用（状態）による方法
10. 砂地
 - a. 砂地
 - b. 利用（状態）による方法
11. コルホーズ付属地（勤労者の）
 - a. 付属地
 - b. 利用（状態）による方法
12. （国有林フォンド，国有地フォンドの部分での）コルホーズ・ソフホーズの土地利用には属さず，当年度，コルホーズ・ソフホーズにまかされた地積（草刈り場など）
かくて，これらは農業地域区画の実践的な指標として各地域において利用されているのである。

お わ り に

以上，ソヴェトにおける“経済地域”の確立と，その意義および農業地域の区画，指標などの問題に考察を加えてきた。

経済地域は、ソヴェトにおける国民経済の各部門の地域的表現として重要な意義を有していることが明らかとなった。経済地域は、長年にわたり形成されてきた地域生産コムプレクスとしてあらわれている。第3表にしめしたごとく、それは、コークスを基礎にした冶金業、エネルギー集約型、機械類生産主導型などのごとく、それぞれが特色をもちつつ、基本的には、重化学工業が主導部門となってあらわれていた。しかし、ソヴェトでは、北東経済地域のように、いまだ、ピオネールすなわち開発途上のところもあり、また、いくつかの中心部門が錯綜するコムプレクス構造のものもある。しかも、それぞれがある種の *цикл* を形成するように変動しつつある。したがって、経済地域の考察には、具体的な地域に即した、歴史的かつ展望的な考察が、とりわけ重要なものとなる。

一方、経済地域＝地域生産コムプレクスには、北カザフ、中央アジア経済地域など、農業が中心部門となっているものもあり、たとえ重化学工業主導型のものであっても、農業部門の形成はもちろん皆無ではない。各経済地域における食糧自給ひいては農業の重要性については、政策的な面からも問われている^脚。そのため、経済地域内部における農業の相対的な地位の確定をしなければならない。農業地域区画は、このような工業などの他の生産部門との関係をはっきりさせれば、いっそうその意義が明きらかとなる。

ところで、第2表にしめしたように、地域を構成する要素には、自然資源などの自然的条件があり、農業地域区画の場合、スケールの問題もあるが自然—経済地域のように、自然的な側面がとりわけ重視されている。しかし、たとえば、*Баранский* は、農業地域区画の指標において、自然的条件を重視したため批判をうけたことがある^脚。すなわち、ソヴェトの経済地理学の歴史においては、自然資源、自然的諸条件の評価には、いろいろな見解が存在してきた。

したがって、農業地域のあるいはそれをふくむ経済地域の考察には、自然をいかに評価するかという、基本的で重要な問題が、なお残されているといえる。

注

- (1) В. И. Ленин, Полн. собр. соч., т.45, стр.115., XI съезд РКП (б).
- (2) В. И. Ленин, Полн. собр. соч., т.42, стр.159., VIII всероссийский съезд советов. Ленинはこの大会で、「共産主義とは、ソヴェト権力プラス全国の電化である」という有名なテーゼを提出した。農業をふくめた国の経済を、大規模生産の技術的土台にうつすには、電力だと考えた。当時、農民は *Неестественный свет, который будет освещать нашу крестьянскую темноту* (われわれ農民の暗やみを照らす自然でない光があらわれた) とした。
- (3) Ленин によって、1918年に提起された社会主義建設のプラン。とくに、社会主義建設における生産配置、コンビナートの問題など経済地理学的な示唆にとむ。Набросок плана научно-технических работ.
- (4) (2) 頁. 152. 1920年当時、ドネツ炭田やアゼルバイジャンの石油の採掘は進んでいたが、全国的な規模での供給には困難があり、各地では燃料危機が存在していた。そのため、地元にはたくさんある泥炭採掘の技術開発がすすめられ、「水圧採掘法」という方法を生みだした。これにより、地域での泥炭を利用した発電所建設が急速にすすむ。
- (5) Г. Н. Церданцев, Н. П. Никитин, Б. А. Тутьхин, Экономическая география СССР (邦

- 訳, p. 9. 1960). 電化をもとにしたコムプレクスについては, А. А. Григорьев, Комплексный план области, Плановое хозяйство, 1972—12. стр. 57. においてオブラストレベルの問題が指摘されている。
- (6) 国民経済の発展の結果, ソヴェトでは, 経済地域の区画 そのものは, たびたび変更されている。たとえば, 大経済地域をとってみると, 1932年には 24地域あり, 生産配置の急速な 発展が期待された。諸地域では, 国民経済的任務遂行, 自地域内の総合的発展がめざされた (セチューコフ編: ソヴェト・ロシア経済地理, p. 53, 1934. 参照)。また, 1961年には, 13区画された。最近では, 約18の大経済地域にわけられている。Б. Н. Семевский, Введение в экономическую географию, стр. 332. 1972. を参照せよ。
- (7) В. В. Покшишевский, География Советского Союза—природа, население, хозяйство, 邦訳, p. 116.
- (8) 1922年以降は Государственная плановая комиссия совета министров СССР. 後に Государственный плановый комитет совета министров СССР. とよばれた。
- (9) ① 経済地域は, 大地域生産コムプレクスである, ② 区画の基礎に, エネルギー. 経済原理をおく, ③ 各地域は, その地域で, もっとも有利な生産のための特化を示す, ④ 地域区画が運輸合理化に役立つ, ⑤ 地域区画は, 将来的展望的である, ⑥ 経済地域区画と行政区画とを一致させる。Ю. Г. Саушкин, Введение в экономическую географию., стр. 81. 1970., および, 同, Советская экономическая география, стр. 65, 1965(Экономическая география в СССР—История и современное развитие 所収)。
- (10) Н. Н. Колосовский, Основы экономического районирования, 1958. И. В. Никольский, Типология районных производственных комплексов, Известия Академии Наук СССР, серия географическая, стр. 68. 1972.
- (11) Н. Н. Колосовский, Иван Гаврилович Александров (1875—1936), (Саушкин, (9) Э. г. С, 所収, стр. 437.)
- (12) А. И. Ведищев, Проблемы размещения производительных сил СССР, 1963. стр. 56.
- (13) 吳傳鈞: 蘇聯的地理機構和蘇聯地理学發展的一些情况, 地理学報 24—4, p. 443.
- (14) Г. Гапоненко, Реализация ленинских планов преобразования сельского хозяйства, Плановое хозяйство, стр. 44. 1971—2, その他, 農業発展のテンポ, 土地フォンドなどについてあげている。
- (15) (3)参照。
- (16) В. И. Ленин, Полн. собр. соч., т. 42, стр. 341., Об елином хозяйственном плане. Г. Э. Р. プランに参加した専門家は200件をこえる研究成果を提出した。それらは『ロシア社会主義連邦ソヴェト共和国電化計画』に収録された。
- (17) И. Степанов, Электрификация Р. С. Ф. С. Р. в связи с переходной фазой мирового хозяйства, 1923 (邦訳, 労働露国の産業と電化計画, p. 58). 農業の機械化については, 吉岡金市: ソ連農業の機械化, 1949, p. 107. 参照。農業に機械体系を応用することは, 農業生産を工業生産の一変種にするための, もっとも重要な特徴であり, 都市と農村との対立を廃棄するためにも重要であるとする。
- (18) В. И. Ленин, Полн. собр. соч., т. 43, стр. 228., О продовольственном налоге.
- (19) 同上。
- (20) В. И. Ленин, Полн. собр. соч., т. 43, стр. 260., Тов. Кржижановскому в президиум ГОС-ПЛАНА.
- (21) Г. М. Сорокин, Планирование народного хозяйства СССР, 1961. стр. 171., 平館利雄: ソ

- ヴェト計画経済の展開, p.156. 1968, 参照。
- ② ソ連邦共産党史, 第2分冊, p.422, 1960 (邦訳), p.422, 貧農委員会の形成によって, 農業コムーナなどの農民の生産団体が生まれている。
- ③ 1929年11月にひらかれたソ連共産党の中央委員会総会において指摘された。このあと, いわゆる「集団化のテンポとコルホーズ建設にたいする国家の援助について」という歴史的文書がだされ, コルホーズによる集団化は急速な発展をみせる。
- ④ 正式には「人民委員会隷属国家計画委員会規程」, シャルル・ベトゥレーム:ソヴェト経済の構造, p.59—63, 1954. 14条からなる。
- ⑤ たとえば Т. Соколов, Подъем сельскохозяйственного производства—важнейшая народно-хозяйственная задача, Плановое хозяйство, стр. 13. 1970—9. など。
- ⑥ В. И. Ленин, Полн. собр. соч., т.3, Развитие капитализма в России における方法。
- ⑦ つまり, 「特定の時期に, 鎖の特殊な一環を, すなわち全力をあげてそれをつかめば, 鎖全体をおさえることができ, しかもつぎの環への移行をしっかりと準備できるような, 特殊な一環」(Полн. собр. соч., т.36, Очередные задачи советской власти, стр. 205)として, 当時の農業を把握するために, この指標を考えたのである。現代日本資本主義における農業の区画については, たとえば, 工業都市の発展の各段階にともないつつ, その地域の配置を, それに対する農業・農民の対応=対抗の形態という点に視座をおく方法について注目される。石井素介は, その観点から, 1. 大都市近郊地域, 2. 中間農村(工業化農村, 商業的農業地域, その他を含む), 3. 水田稲作専門化地域, 4. 辺境(限界農村)における。(戦後日本における農業地域の構造的変動, 経済地理学年報, 15—1. p.25)
- 一方, 基本的に大農否定の立場をとった Чаянов は, 等価線の網を自然地理的地図の上に描き, 自然的状態の影響を考慮に入れ, いかなる経営方式とどの程度の集約度が, 生産諸力を活用し, もっとも有利なものであるかを画定できるとした。そして, その地域に現存する, もしくは, 当然設定されてよい典型的な農業経営組織を確立しようとした。生産費のコストなども考慮しているが, 区画の中心は経営方式をいかにとらえるかにあった。
- ⑧ Ф. С. Крохалёв, О системах земледелия, 1969. 邦訳, p.292.
- ⑨ В. И. Ленин, Полн. собр. соч., т.36, стр.152., Вариант статьи «Очередные задачи советской власти».
- ⑩ たとえば, 1930年の農業科学アカデミーの研究など. Leslie Symons, Russian Agriculture, p.251.
- ⑪ А. Н. Ракитников, В. Г. Крючков, Аграрное районирование, 1966. География СССР. №.2, стр.38.
- ⑫ 同上, 40.
- ⑬ В. П. Шощкий, Картографическое методы исследования географических проблем сельского хозяйства, стр. 6.
- ⑭ Альб. Л. Вайнштейн, Александр Николаевич Челинцев, Экономическая география в СССР, стр. 492. 1965.
- ⑮ Е. Н. Перцик, Районная планировка, стр. 238. 1973.
- ⑯ К. Ф. Строев, А. А. Ивантер, М. К. Ковадевская, В. Я. Ром, Экономическая география СССР. 8. стр. 76. 1973.
- ⑰ ⑱)と同じ。
- ⑱ В. И. Ленин, Полн. собр. соч., т. 17, стр. 120., Аграрный вопрос в России к концу XIX века.
- ⑲ ⑳ стр., 22.

- (40) コルホーズの専門化かデパートメント化については、Калининは「専門化を主張する。アメリカの如きは、小麻専門、包米専門、畜産養禽専門といふ風に分かれ各部門とも大規模な経営が行はれている。家畜農場区域を一巡するにも一日を要する様な有様である。我国は技術上米国に学ばねばならぬ点が多い、私はアメリカ式を採らんことを望むものである」とし、専門化を主張した。サウエート現勢資料、1931年版、p. 559.
- (41) これは、他の社会主義国においても、国营農場と集団農場との関係についていえる。たとえば、中国の場合、国营農場の任務には、周囲の農民を団結させ、大規模生産の優越性を示し教育をすることがあげられている。拙稿：中国農村における経済地域—専区級および人民公社級経済地域について—史林、53—3、p. 86. を参照せよ。
- (42) Н. Н. Баранский, Экономическая география в СССР, 邦訳 p. 87
- (43) 拙稿：人民公社、世界地誌ゼミナール I, 東アジア編, p. 112 では、北京における蔬菜の倒流現象を示す。
- (44) Т. Л. Басюк, Организация социалистического сельскохозяйственного производства, стр. 8. 1956.
- (45) 同上, стр. 48.
- (46) Albert E. Burke, Influence of Man upon Nature — the Russian View; A Case Study, Man's Role in Changing the Face of the Earth, p. 1042, 1966.
- (47) (7), p. 120.
- (48) Е. Е. Лейзерович, Разрешение проблем экономического микрорайонирования, Известия Академии Наук СССР. серия географическая. стр. 88. №. 6, 1972.
- (49) (13), p. 445. を参照せよ。
- (50) 陳述彰：地図学的若干現代特征, 地理学報 29—1, p. 39. 単幅地図に、総合的に、各種の地理的要素、現象を示す。また、自然綜合体あるいは地域経済コムプレクスの表現も行う。
- (51) В. П. Шоцкий, Картографическая техника сельскохозяйственного районирования, стр. 5, 1971. にその例が提示されている。
- (52) (8), стр. 45.
- (53) 非黒土地帯における農業の発達についての問題は、Н. Борченко, Программа комплексного развития сельского хозяйства нечерноземной зоны, Плановое хозяйство, стр. 83. を参照せよ。
- (54) (4), стр. 15.
- (55) В. И. Ленин, Полн. собр. соч., т. 5, стр. 137., Аграрный вопрос и <Критики Маркса>
- (56) (7), p. 117.
- (57) 同上。
- (58) С. В. Шюрлиц: Советское сельское хозяйство, 邦訳, p. 222, 1950.
- (59) А. Н. Ракитников, География сельского хозяйства—проблемы и методы исследования, 1970. стр. 38—44.
- (60) このことは、農工結合という観点からも重要なものであるといえる。
- (61) レニングラード大学付属地理・経済地理学研究所編：地理および経済地理学の方法論的戦線において（邦訳、p. 37. 1934）。Баранский は経済地域区画の原則を、生産の地域的集中という経済的条件のほかには、地理的位置、気象の諸条件に求めた。これに対して、「変移常なき社会的諸条件よりもはるかに堅固な自然的諸条件に対して第一等の月桂冠を与へ」ており、彼の見解では、経済地域は、「弁証法的統一においてでなく、或る形而上学的全一体として現はれ」ているとするなどの批判がなされた。

Резюме

О теории экономического района и о методах сельскохозяйственного районирования в СССР

Масакадзу КОМАЙ

В этой статье, мы анализируем проблемы районирования в СССР.

В экономическом районе входят природные условия и ресурсы материально-техническая база производства. Приходилось развивать в каждом из районов важные отрасли промышленности, превращать их в основательные экономические единицы. Экономический район определяется как территориальный производственный комплекс со специализацией.

Сельское хозяйство в одних районах занимает ведущее место в структуре территориально-производственного комплекса. Сельскохозяйственное районирование является комплексом географических, экономических и агротехнических проблем и основным средством отображения порайонной характерной черты сельскохозяйственного производства.